



原子力防災への取り組み

東海村教育委員会



阪神淡路大震災・東日本大震災から学んだこと

- 人の心と行動のすばらしさ、絆の大切さ
- 地域の大切さ
- 災害の怖さ
- 学校、教師のすばらしさ
- 学校の果たした役割の大きさ(学校開放、情報公開など)
- 避難訓練の有効性
- 防災教育の重要性



学校における安全教育の充実へ (基本となる考え方)

- 事故、災害はいつでも誰にでもどこでも起こる
- 生きる力を育むことが目標
 - ・個人の安全を最優先
 - ・防災教育は郷土愛の大切さや人との関わり方の在り方を学ぶ教育でもある



安全教育の一環としてのおさえ

- 自分の身は自分で守る
- 自分の安全を確保したら、他の人に役立つことができる
- 必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける



防災教育充実のための課題

- 1 備品の固定、薬品等の管理、施設の補強など耐震化策の実施
- 安全な避難経路の補強
- 非常時の薬品、食品、毛布などの準備
- 教職員の対応の仕方
(対策)
原子力安全対策課，教育委員会で対応



防災教育充実のための課題

- 2 効果的、実践的な避難、防災訓練の実施
- 3 防災リテラシーの学習(知識・技能、実践力、地域へ貢献する心の育成、指導計画の作成)
- 4 平常時から災害に備えること(防災活動、訓練の実施、避難行動の習熟、緊急連絡方法の確認、行動マニュアルの作成)
- 5 災害発生時に対応できる体制の整備
(対策)
教育委員会及び学校で対応



村立小・中学校での基本的な取り組み

- 原子力に関する正しい知識を(課題の2, 3)
- 原子力災害に備えて(課題の2, 4, 5)
- 年間学習計画の作成
- 原子力防災マニュアルの作成
- 指導案の作成 授業
- 防災管理組織づくり
- 避難訓練の実施

原子力に関する正しい知識
原子力災害時の適切な行動



原子力に関する学習でおさえる内容(小)

	低学年	中学年	高学年
身体への影響	目に見えない危険	身近にある放射線	身体への影響
避難の仕方	安全な避難の仕方	避難経路や避難場所の確認	正しい情報の入手
健康被害の防止	放射線の存在	放射線の使われ方	安全対策の理解



原子力に関する学習でおさえる内容(中)

身体への影響	放射線の種類 身体への影響(早期影響, 晩発影響) 遺伝的な影響
避難の仕方	正しい情報の入手 屋内退避と避難の仕方の確認 ヨウ素剤の服用について
健康被害の防止	原子力とは何か 原子力利用の現状 国, 県, 村の安全防災対策について, 応急手当の技能



年間学習計画(低学年) [資料1・2]

- 原子力関係の仕事をしている人がいることが分かる
- 施設では事故を起こさないようにしていることが分かる
- 災害が起きたときの対処の仕方が分かる



年間学習計画(中学年)

- 原子力施設がたくさんあることが分かる
- 原子力発電のよいところと心配なところが分かる
- 災害が起きたときの対処の仕方が分かる



年間学習計画(高学年)

- 放射線の人体に対する影響が分かる
- 放射線の種類が分かる
(利用方法について分かる)
- 災害が起きたときの対処の仕方が分かる



年間学習計画(中学校)

- 原子力とは何かが分かる
(放射線の人体への影響も含める)
- 現在のエネルギー事情が分かる
(原子力事情も含める)
- 安全対策や防災対策が分かる
- 安全な屋内退避、避難の仕方が分かり、実践することができる
- 応急手当や救援物資の運搬などを行うことができる



5年生の実践

(わたしたちの生活と原子力)



6年生の実践

(放射線について調べよう)



原子力防災に備えること(組織づくり, マニュアル作成, 関係部局との連携)

- 防災管理組織及び任務
【資料3】
- 災害発生時の初動体制
マニュアル【資料4】
- 原子力災害時の2次対応
マニュアル【資料5】
- 保護者への引き渡し手順
【資料6】
- 避難経路(避難時)
- 屋内退避所開設マ
ニュアル【資料7】
- 原子力災害における
心のケア
- 緊急通報先一覧作成

屋内退避までの手順

- 災害発生の放送
- ドアや窓を閉める。
- 換気扇を止める。
- 手や顔を洗う。
- 静かに座って待つ。
- 服を着替える。
- 着ていた服をビニール袋に入れる。

心のケア(屋内退避時の段階)

- | | |
|-----------|---------|
| ● 精神的ストレス | ● リラックス |
| ● 生理的ストレス | ● 自由 |
| ● 空間的ストレス | ● 静かさ |

心のケア活動に入るまでの手順

- 見通しをもたせる。
- 何が起きたのか。
- これからどうなっていくのか。
- 最終的にどう解決するのか。
- 不安感のある子の確認をする。
- 急に不安になったら先生に言うよう指示する。
- 活動へ取り組む。

心のケアのための活動

年	組	活動内容
1	1	読書, お絵かき, おり紙から自由選択
	2	〃
	3	〃
2	1	絵描き, 創作活動(折り紙)
	2	お絵かき, 本の読み聞かせ, 手遊びゲーム
3	1	クイズ, しりとり, 読書, 絵かきから自由選択
	2	読み聞かせ, 読書
	3	読み聞かせ
4	1	読書, 自由帳
	2	読書, 自由帳
5	1	東海村カルタ
	2	読書
6	1	ビデオ, トランプ, 読書から自由選択
	2	読書, 絵画, カードゲーム, ビデオ視聴から自由選択
つし		ビデオの視聴

活動までの流れ

	流れ	働きかけ
1	1	何かおきたのか 東海村にある原子力施設で放射性物質が漏れたことを想定して、避難訓練を行っている。校庭などにおいて放射性物質を浴びると、健康に影響があるので建物の中に退避している。
	2	これからどうなっていくのか 施設の人が災害発生箇所の修理を行っている。まもなく、修理が完了する予定。
	3	最終的には もうすぐ外に出て安全な状態になる。それまで待っている間、どうせなら安心して過ごせるようにしよう。
2	今、気持ちが悪かったり、これから先どうなるのかわからず、不安でいっぱいの人を挙手してください。	
3	活動をしている途中で、不安感でいっぱいになった人は、すぐ先生に言ってください。	
4	それでは、今から、外が安全な状態になるまでの間、楽しい活動を行いたいと思います。	
各クラスでクラスの実態に応じて、内容をアレンジしてください。		

児童生徒引き渡し手順

(例)

- 1 保護者来校
- 2 保護者が校舎内に入る
- 3 保護者が学級を回る
- 4 保護者への引き渡し(名簿確認)
- 5 残留児童の一時保護(名簿確認)



地域との連携

- オフサイトセンター、県及び村との連携
- 地域住民との連携
- 原子力施設との連携
- 保護者との連携
- 教職員の共通理解



これまでの成果

- 原子力を身近な存在として認識
- 私達の生活に利用
- 放射線の健康への影響の理解
- 災害時に適切な行動
 - 指示に従う
 - 建物の中に退避する
 - 手や顔を洗う



今後の課題

- 原子力に関する学習をする時間が限られ、系統的、継続的な学習ができなくなっている。
- 家庭の保護者や地域の方々へ原子力に関する学習の機会の提供を関係部局と共に進める必要がある。
- 震災で屋内退避場所が村内で確保できない時の避難方法・場所の確保と保護者へ連絡方法の確立する必要がある。